

富山湾で漁獲されるスルメイカの移動経路を明らかにする

研究分野

水産資源を管理・利用する

ねらい

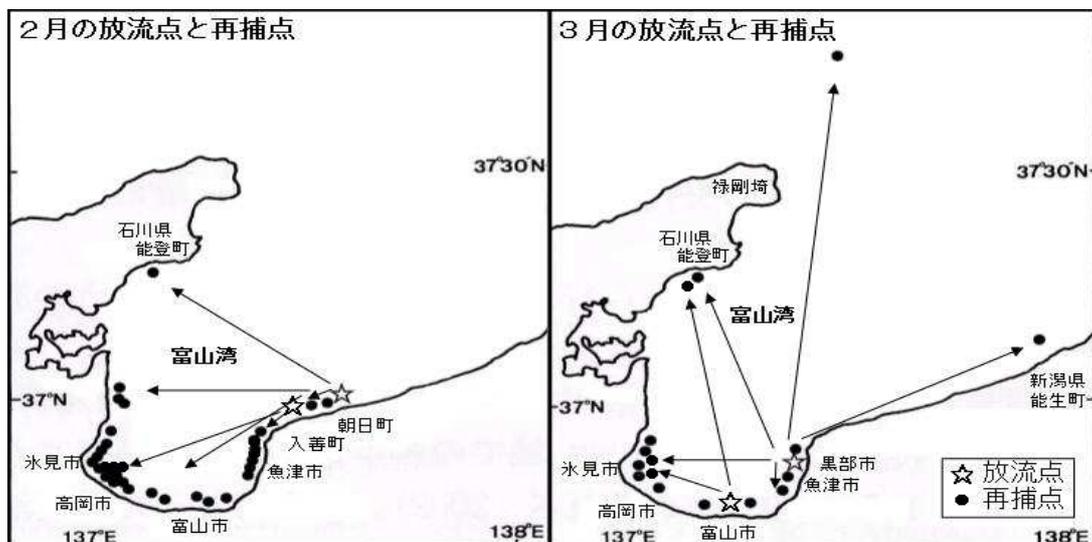
- ・ 初冬から初春にかけて、富山湾で漁獲されるスルメイカは、この時期の定置網漁業における重要対象魚種の一つであり、富山県では毎年約 1,000 トン（平成 8 年～17 年の平均）がこの時期に水揚げされています。
- ・ 1～2 月には、胴長約 24～26cm の大きなスルメイカが水揚げされ、3～4 月には、胴長約 16～18cm の小さなスルメイカが水揚げされています。これらの大きさの違いは、生まれた時期の違いによるものであることがわかっています。
- ・ 富山湾内における漁獲量を予測するために、これらのスルメイカが、それぞれどのように移動するのかを明らかにする必要があります。
- ・ そこで、2 月及び 3 月に富山湾内で釣ったスルメイカに標識をつけて放流し、再び漁獲された位置から、スルメイカが移動する経路を調べました。

成果

- ・ 標識をつけたスルメイカが再び漁獲された位置から、1～2 月に漁獲される大型のスルメイカは、富山湾を出ることなく、湾内に留まることがわかりました。そのまま富山湾内で一生を終えるものと考えられます。
- ・ 3～4 月に漁獲される小型のスルメイカは、数ヶ月間富山湾に留まった後、日本海を北上していく傾向にあることがわかりました。

活用

- ・ 1～4 月に富山県でスルメイカがどれくらい漁獲されるかを予測し、「冬イカ漁況予報」としてまとめ、漁業関係者のみなさんに提供しています。



研究実施期間 平成 8 年度～平成 11 年度
問い合わせ先 富山県水産試験場 (076-475-0036)